

2023年度点検・評価シート

- ・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針
【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針
- ・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基準データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。
- ・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。
- ・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	14 日本語学科	責任者	福盛貴弘	
基準 5	学生の受け入れ	自己評価	A	
★基準5の自己評価の理由を簡潔に解説してください。				
<<回答>> 学科入試委員会と学科協議会の連携によって、適切な受け入れを実施しているため。				
点検・評価項目(1)	5-1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。			
★<学生の受け入れ方針>（記入してください。） 日本語学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。 1. 知識・技能 日本語学に対する深い関心と、それを専門的に学ぶのに十分な基礎学力を持っている。 日本語について専門的に学ぶための基礎となる確かな日本語力を持っている。 2. 思考力・判断力・表現力 日本語や日本の文化を世界の言語・文化の中で相対化し、客観的に見ることのできるだけの批判的な思考力や判断力を持ち、その思考や判断を的確に表現できる。 先入観や偏見にとらわれず、広い視野から外国文化に触れ、それをありのままに理解できる。 3. 主体的に学習に取り組む態度 日本語や日本の文化を深く学ぶとともに、外国語・外国文化にも関心を抱き、異文化交流に積極的に参加する意欲を持っている。 日本語教師・国語教師のみならず、本学科で修得した能力と知識を生かして、広く世界と日本の中で活躍できる職業につきたいと考えている。 日本語学科で学んだことを創造的に活用して、大きな変動の中にある現代社会の需要に応えたいと考えている。			変	有 ()
			更	無 (✓)
評価の視点1※ 【基礎要件●】	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し公表している。根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針、基礎要件確認シート 15			
評価の視点2※ 【基礎要件●】	方針には、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像を踏まえて設定している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針			
評価の視点3※ 【基礎要件●】	入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示され、公表している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針			
◆学生の受け入れ方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。（ない場合は「なし」と記入）				
<<回答>> なし				
点検・評価項目(2)	5-2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。			
評価の視点1※	学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定している。 根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報、B5-2 入学試験要項（一般、公募制推薦、自己推薦、社会人、編入学、科目等履修生、外国人留学生）、A5-4*大東文化大学入学者選抜試験規程			
評価の視点2※	授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供を適切に行っている。 根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報			
評価の視点3※	学科ごとに入試に関わる委員会等を設置し、入学者選抜実施のための運営体制を整備している。			

	根拠資料→A3-11*入学センター規程、B5-15 部局内入試委員会名簿	
評価の視点4	公正な入学者選抜を実施している。根拠資料→A5-3Web サイト、A5-4*大東文化大学入学者選抜試験規程	
★項目(2)5-2①公正な入学者選抜を実施するため、どのような取り組みを行っているか、根拠資料を用いて回答してください。		
＜回答＞	学園の方針に従って、採点結果、面接結果に従い、定員を充足するための人数を目指して、合議で判定している。	＜資料名＞ 14-C5-1：教授会議事録
★項目(2)5-2②オンラインによる入学者選抜を行う場合における公正な実施（オンラインによる入学者選抜を検討していれば、実施する場合における課題やメリット等を記述してください。）		
＜回答＞ オンラインでの入学者選抜は行なっていない。		
評価の視点5	入学を希望するものへの合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施している。（一般入試及び多様な入試への対応）根拠資料→A5-3Web サイト、A5-4*大東文化大学入学者選抜試験規程	
★項目(2)5-2③オンラインによって入学者選抜を行う場合における公平な受験機会の確保（受験者の通信状況の配慮等）（オンラインによる入学者選抜を検討していれば記述してください。）		
＜回答＞ 学園の方針に従って行っている。		
◆学生募集及び入学者選抜について問題点があれば記述してください。（ない場合は「なし」と記入）		
＜回答＞ なし		
点検・評価項目(3)	5-3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理している。	
評価の視点1※ 【基礎要件●】	学科の入学者数は、入学定員に対して適正な数である。 注：定員管理の指針 入学定員に対する入学者数比率（5年平均） 定員超過→実験実習を伴う分野 1.20 以上(改善課題)、1.25 以上(是正勧告) 上記以外の分野 1.25 以上(改善課題)、1.30 以上(是正勧告) 定員未充足→0.90 未満(改善課題)、0.80 未満(是正勧告) 根拠資料→大学基礎データ表2、基礎要件確認シート16	
評価の視点2※ 【基礎要件●】	学科の在籍学生数は、収容定員に対して適正な数を維持している。 注：定員管理の指針 収容定員に対する在籍学生数比率 定員超過→実験実習を伴う分野 1.20 以上(改善課題)、1.25 以上(是正勧告) 上記以外の分野 1.25 以上(改善課題)、1.30 以上(是正勧告) 定員未充足→0.90 未満(改善課題)、0.80 未満(是正勧告) 根拠資料→大学基礎データ表2、基礎要件確認シート16	
評価の視点3	収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応	
★項目(3)5-3 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足がある場合、当該部局としての改善策（今後実施予定のものも含む）根拠資料を用いて回答してください。		
＜回答＞	本年度は、日本に在住できない留学生が多数いたため、留学生定員を満たすことができなかった。これは、COVID-19 の状況次第である。なお、これに対応するために、指定校推薦の対象を拡げ、定員の充足に努める次第である。	＜資料名＞ 14-C5-2：学科入試委員会議事録、学科協議会議事録
点検・評価項目(4)	5-4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
評価の視点1※ 【評価要件○】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 根拠資料→B2-51 2023 年度点検・評価シート B2-52 会議録（または準ずるメール記録）：(開催日) 2023 年度自己点検・評価について	
評価の視点2 【評価要件○】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っている。	
★項目(4)5-4 改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。2019 年度以降の取り組みも含めて記述してください。		
＜回答＞	＜資料名＞	

推薦入試の基準を見直した。	14-C5-3：学科入試委員会議事録、学科協議会議事録
---------------	-----------------------------

II 現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項（工夫していること）を、意図した成果（目標）を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・ 特色

III 今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題 点・ 課題

IV 【改善計画（事業計画）】

カ テ ゴ リ	計 画 番 号	B票No. or 開始 年度	改善計画 (アクション プラン)	内容(改善を要すると判断した根拠)	目標の評価指標	目標値	年度計画

V 【内部質保証委員会による点検・評価】

<p>2022年度<所見></p> <p>学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し、公表されている。入学者選抜実施のための運営体制として、入試委員会等を設置し、教授会において入試総括、入試改革案審議や各種入試の合否判定について説明・提案をおこない、学生募集及び入学者選抜の入学者選抜を公正に実施されている。これらの点において、学生の受け入れ体制の整備と運営状況は適正であると評価できる。</p> <p>2022年度の入学定員充足率は0.77であった。項目(3)5-3「収容定員に対する在籍学生数の未充足がある場合の対応」として、「COVID-19の状況から、本年度は、日本に在住できない留学生が多数いたため、留学生定員を満たすことができなかった」と分析し、これに対応するために「指定校推薦の対照拡充」により定員の充足に努めるということであり、改善されることが望まれる。本年度の入試において入学者数確保に改善がみられることが期待されるとともに、以上の分析や対応策の効果を検証しながら、今後の学生募集および入学者選抜におけるより確かな学生確保に向けて取り組みが進むことを期待する。</p>
<p>2023年度<所見></p> <p>学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し、公表されている。入学者選抜実施のための運営体制として入試委員会等を設置し、教授会において入試総括、入試改革案審議や各種入試の合否判定について説明・提案を行い、学生募集及び入学者選抜を公正に実施されている。これらの点において、学生の受け入れ体制の整備と運営状況は今年度も継続され、適正であると評価できる。</p> <p>入学定員に対する5年平均比率0.91、収容定員充足率は2023年度0.90となっている。また、2023年度の入学定員充足率は0.77となっており昨年度に引き続き、定員未充足の状態であった。日本語学科では日本に在住できない留学生が多数いたため、留学生定員を満たすことができなかったのは、COVID-19の感染状況による影響でもある。これに対応するために、指定校推薦の対象を拡げて定員の充足に努めるとしており、改善されることが望まれる。なお、定員未充足の解消には、外国語学部の他の学科と協議しながら対応する必要がある。今後も学生確保に向けての取り組みが進むことを期待したい。</p>

◆評価の基準について

※各基準の「自己評価」は、各部署の判断に委ねられます。なお、青字部分は、本学としての解釈です。

S	<p>大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。</p> <p>（評価の視点に対して、クリアしており、さらに向上させるための取り組みを行っている、また</p>
---	--

	は、他部局の参考となるような特色ある取り組みを行っている場合)
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。 (評価の視点に対して、クリアしている状況と判断する場合)
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

<注>「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

(解説)

大学は、その理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示した学生の受け入れ方針を定め、公表しなければならない。また、入学定員及び収容定員を適切に定め、公表しなければならない。

大学は、その受け入れ方針に基づき、高等学校教育と大学教育との関連、社会人、帰国生徒及び外国人留学生の受け入れ、飛び級、編入学、転科・転部など、国際的規模での社会的要請に配慮し、適切な入学者選抜制度及びその運営体制を整備し、入学者選抜を公正に行う必要がある。

大学は、教育効果を十分に上げるために、入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍学生数を適正に管理しなければならない。

大学は、学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。